

誰がために里山は開かれる

「開かれた里山」に向けた地域ぐるみの取組



2024. 2. 9

ふたえ里山整備協議会 大塚裕明

美麻地区では少子高齢化、過疎化による人口減少が、住民生活に様々な影響を与えています。

一方で、移住者も多く人口、世帯ともに50%以上となっています。自治会の加入率も低下し、共同作業の担い手なども不足しています。



	人口	世帯数	自治会加入世帯
美麻地区	808人	384世帯	299世帯(77.9%)
二重自治会	174人	85世帯	60世帯(70.6%)
宮村地区	57人	25世帯	15世帯(51.7%)

大町市美麻二重 宮村地区

人口 57人

世帯数 25世帯

(移住者18世帯)

自治会加入世帯数 15世帯

(移住者 8世帯)

「ふたえ里山整備協議会」

(令和2年1月3日設立)

15世帯、1法人、

ボランティア2名

市道驥坂線

至 大町市外

柏木工房



金熊川

393

二重南山城跡



美麻文化センター
臨時休業



親水公園



二重沢農



おおしお市民
農園 管理棟



おひさま融雪プロジェクト

2018～2020



①

②

③

④

⑤

⑥

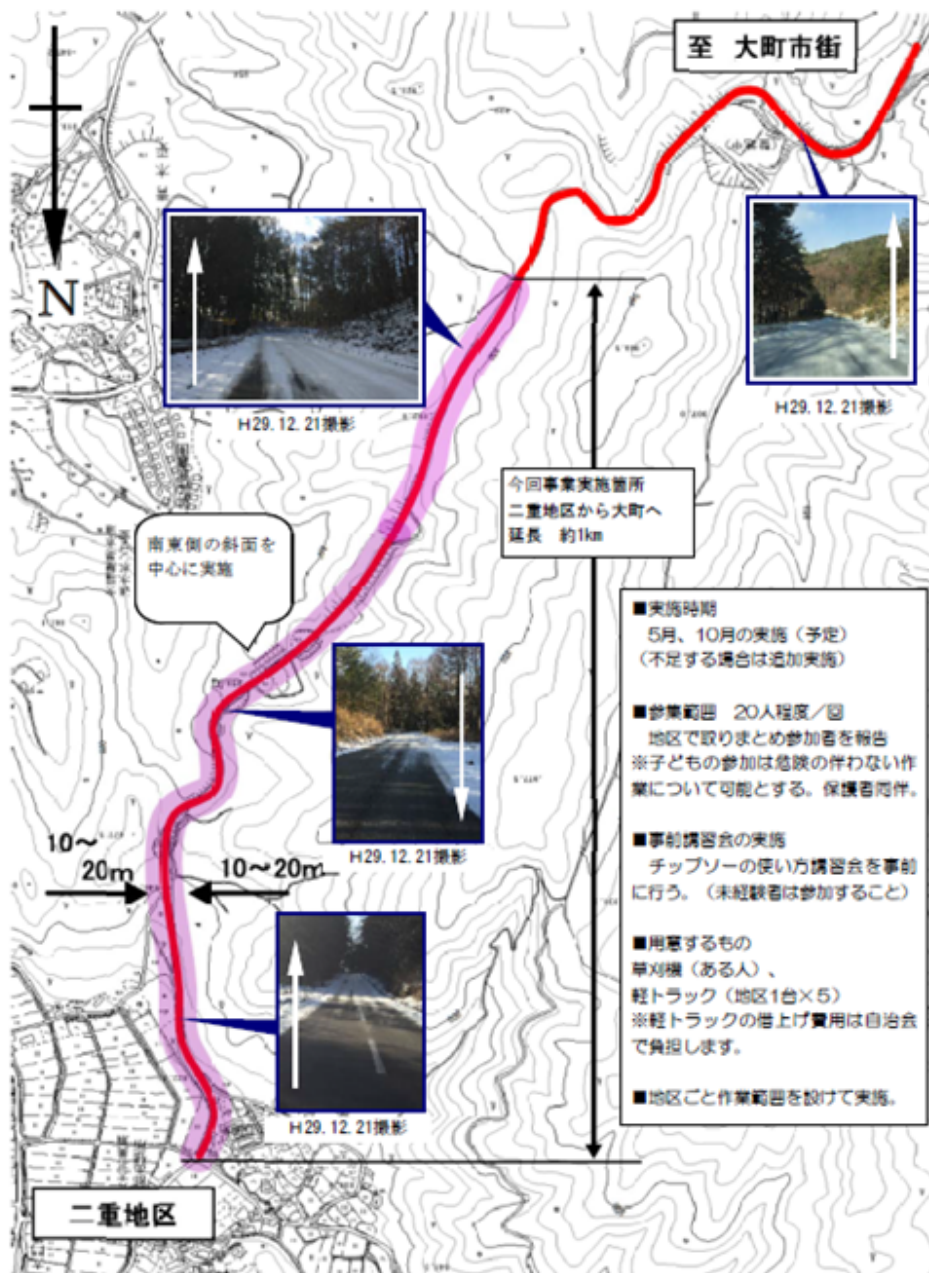
⑦

4月14日撮影



平成30年度おひさま融雪プロジェクト事業実施計画

H30.1.20 二重自治会役員会資料



■実施内容

二重地区から1km程度

道路中心から、10~20m範囲の

種がこぼれて芽吹いたヒヨロとした木を切ります。

趣旨に賛同いただいている二重の人の山林から実施します。

切った木は処分しますが、太い木は寄付していただき、

子供たちに事業を知ってもらうためのイベントに使用します。
（地区PTAと連携を確認済）

5月~11月までの間に作業を実施

2月まで融雪効果を検証し報告



重機を使う人が専門の機械を借りてきてくれたので、作業効率が大幅にアップしました。



高い枝をノコギリで切るのは、見た目より大変な作業なのです。筋肉痛になります。

2018.7.10

高さ30mカラマツ伐採してみると中が空(うろ)になっていて倒れやすい状態でした。【危険】



自分たちで「やってみよう」
Do it Ourselves!



2回目の作業には地域のお母さん達も参加してくれました。この日の参加者は30人以上でした。木は切る以外にも、片付けや、交通整理など、人手は多ければ、多いほうがよいとわかりました。



おひさまゆうせつプロジェクト

「この道、何とかならないものか？」
「そうだ、おひさまの力で、雪を融かしてみよう！」
地域の方も思いました。
雪の重みで木が倒れると、「通れません」
車で凍った坂道を下ると、「とても、怖い」



Before After



整備延長=1,000m
×30人×3回
×200本

平成30年度 大田市ひとが輝くまちづくり事業

市道蟻坂線の支障木伐採作業

おひさま融雪プロジェクト活動実績

3年目
(今年度)



394



2年目 (令和元年度)



1年目 (平成29年度)



おひさま
農園管理株式会社

L=3000m

柏木工房

393

497

39



令和2年6月14日
第1回作業 整備延長=1000m・参加25名



●●●●● 草刈り箇所

■■■■■ 伐採箇所



参加者の体温チェック



作業に係る講習会の実施



伐採作業の状況

作業状況 (枝打ち)



借り上げ車両 (重機、トラック)





令和2年9月12日
第2回作業 整備延長=400m・参加24名





令和2年11月3・4日
第3回作業 整備延長=400m・参加5名



伐採作業の状況



法面の支障木伐採



支障木53本を伐採



参加者からの声

切った木は
何か使い道が
ないのかい？



令和2年11月29・30日
伐採木チップ化作業 ・ 参加15名



3年分の伐採木を大型機械によりチップ化



令和2年12月12日
美麻小中学校へのチップ敷設作業・参加15名



チップを学校のクロスカントリーコースへ運搬



路面の荒れたコース（延べ200m）を補修しました。

参加者のつづやま

オレ達も年だし
次は参加でき
ないかもしれ
ねーな



次回の整備までに何か 対策をしなければ！



【課題1】面的な整備をしないと根本的に問題は解決しない
【課題2】次回まで、地域で整備する体制を維持しなければ



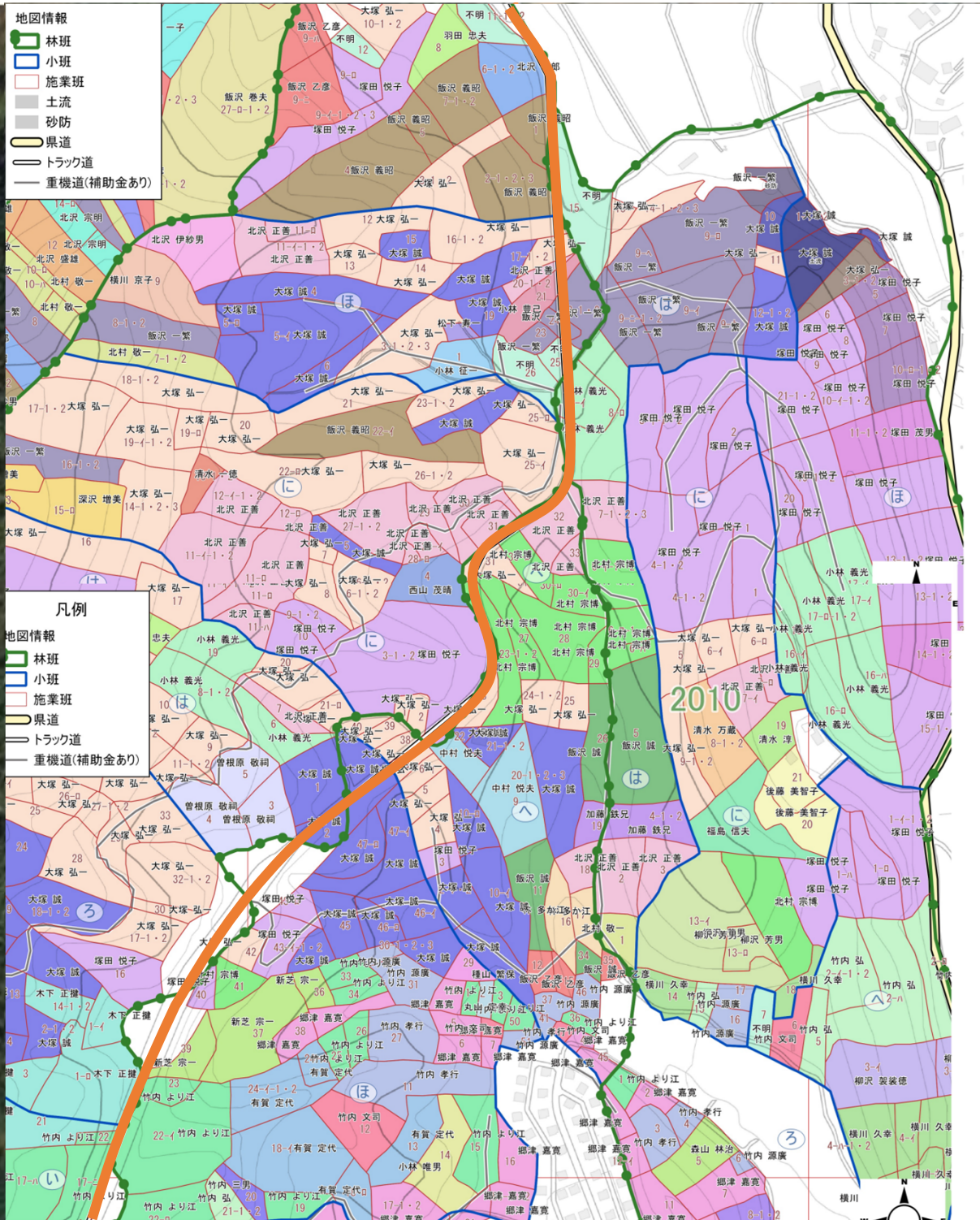
【対策1】 山林所有者へのアプローチ
→ 不在地主との窓口づくり

森林整備協議会を作って 間伐事業で面的整備推進

提案型施業とは、森林所有者に対して、施業内容、施業実施に必要な経費、木材の販売額など、事業を実施した場合の収支を明らかにした見積り(森林施業提案書)を提示して、森林所有者の施業に対する関心を高め、森林経営受委託契約等を締結しつつ、集約化して施業を行う取り組みです¹²³。この取り組みには、大きく2つの目的があります。1つは、複数の森林所有者からの施業受託により、森林を面的かつ継続して管理することです。もう1つは、この取り組みを通じて、森林組合などの林業事業体も利益を得ることです¹。なお、提案型施業は、森林所有者から施業を依頼されるのを待つのではなく、森林組合等の林業事業体の方から、現状を示した写真などにより具体的に施業の必要性を喚起し、森林所有者の施業意欲を積極的に引き出すものです²³。

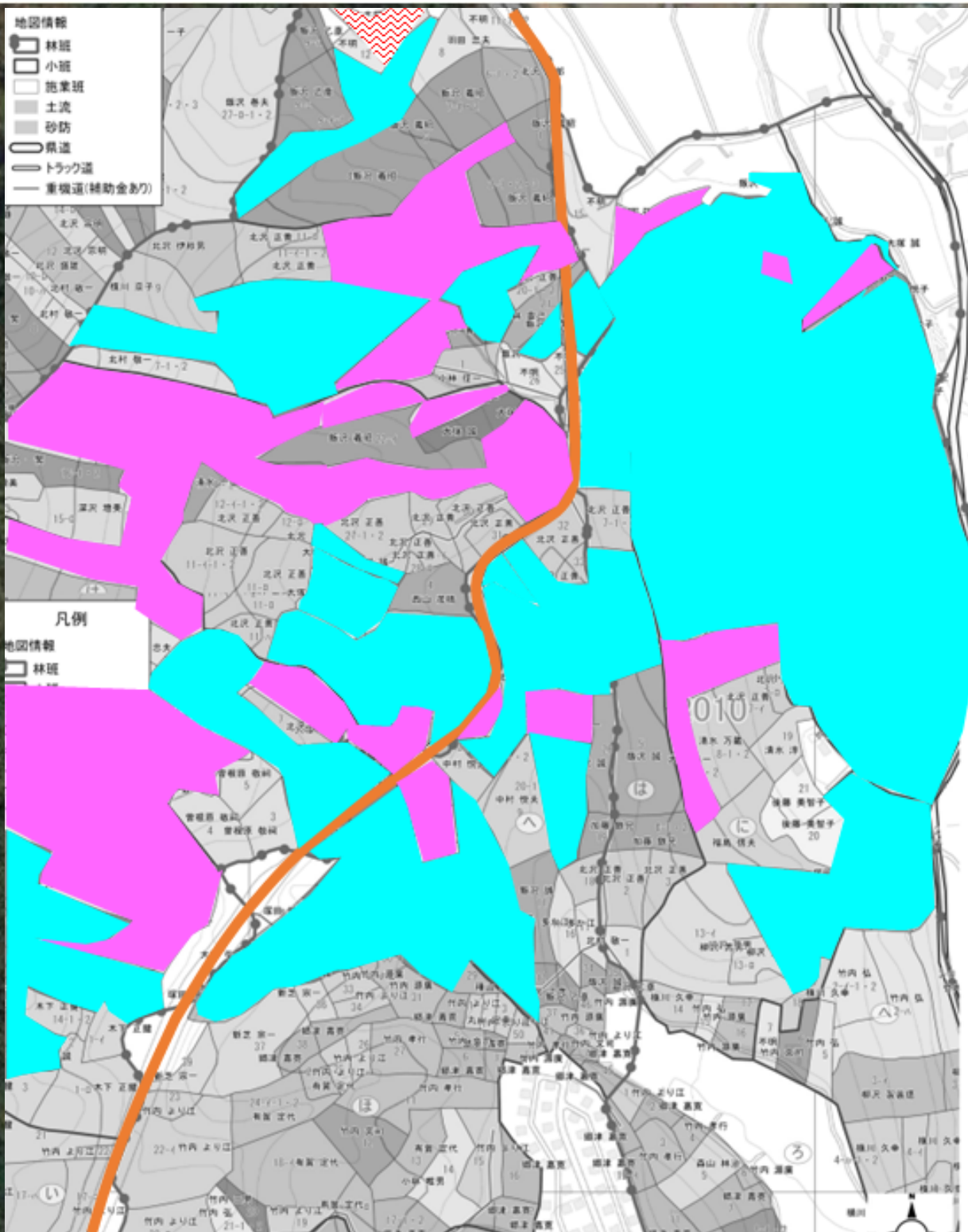
ソース: Bing との会話 2024/1/31

- (1) これから 提案型集約化施業 進め方 - 林野庁. https://www.rinya.maff.go.jp/j/ken_sidou/forester/attach/pdf/index-56.pdf.
- (2) 施業集約化・提案型施業の 推進について - 林野庁. <https://www.rinya.maff.go.jp/j/keiei/syuyakuka/pdf/siryu3.pdf>.
- (3) 森林（もり）づくり | 仙北東森林組合. <http://www.higashi-mori.or.jp/association/subsidy/>.
- (4) 森林施業プランナー・森林経営プランナーの育成について - 林野庁. <https://www.rinya.maff.go.jp/j/keiei/syuyakuka/planner.html>.
- (5) undefined. <https://shinrin-planner.com/%29>.



整備面積
121ha
うち
二重地区
約70ha





二重地区
整備面積
約8割の
所有者
から、
里山整備
の賛同を
いただく

 在住者所有林
 不在地主所有

【浮上した課題】

移住した人達にとっては、

道路環境は自分事だが、

里山整備は、他人事。

【対策2】 山林**非**所有者へのアプローチ

→ 将来に向けた人材育成

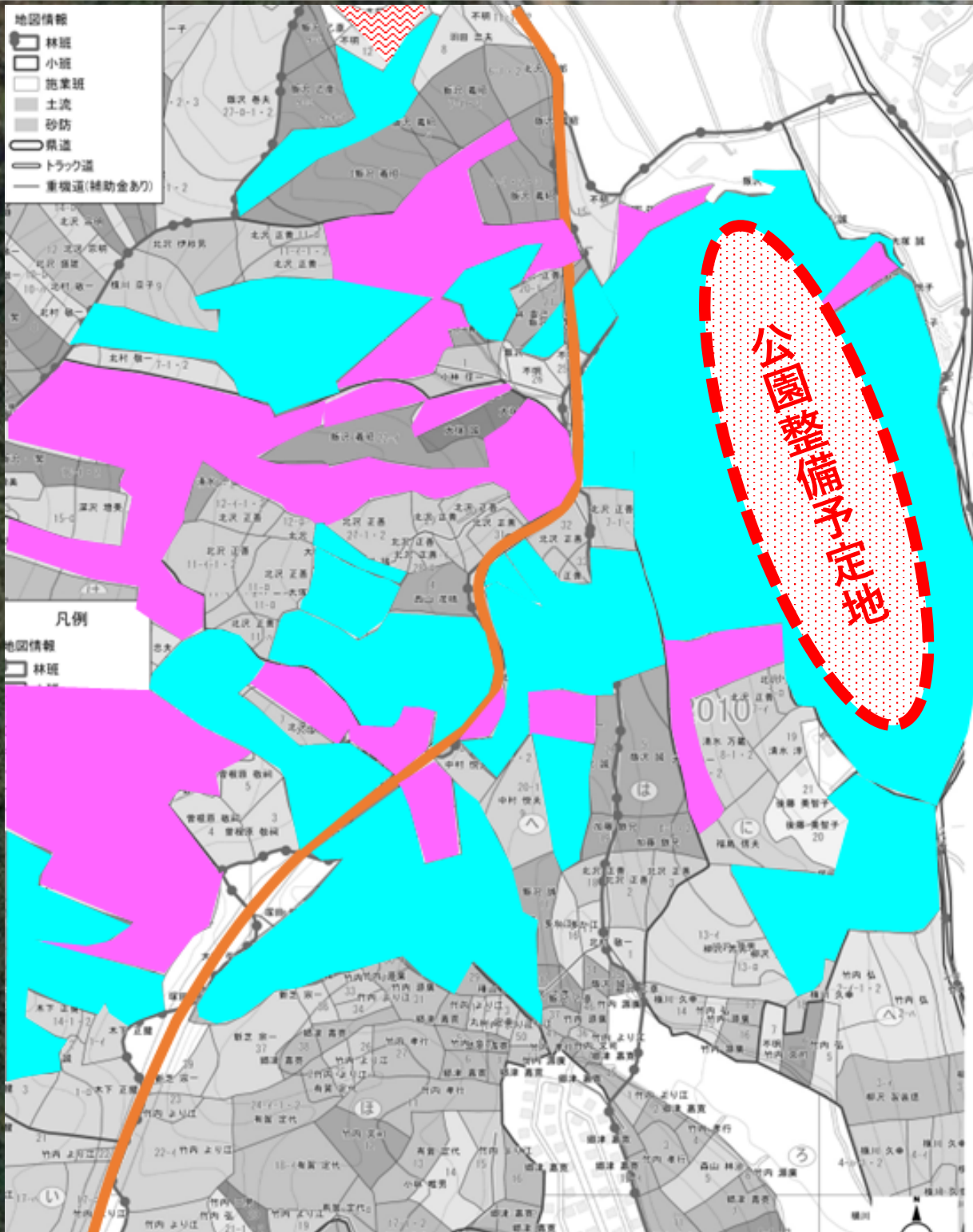
里山整備協議会を作って 山に立ち入る用事を作る



「公園づくり」

フランスの「地方自然公園制度」を参考に

地方自然公園 (Parc Naturel Regional; PNR)は、フランスの農村振興政策において重要な役割を果たしており、LEADERやA.O.C.などの成功した農村開発政策と並んで注目されています。地方自然公園は、12年ごとの「パークチャーター」と呼ばれる計画を作成し、地域の自治体や地方政府がそれを監視・評価します。また、専門スタッフによるサポート体制も整備されており、計画に記載されたプロジェクトを実施するための支援が行われています。



- 地図情報
- 林班
 - 小班
 - 施業班
 - 土流
 - 砂防
 - 県道
 - トラック道
 - 重機道(補助金あり)

凡例

地図情報

- 林班



- 在住者所有林
- 不在地主所有

ふたえ里山整備協議会事業実施位置図



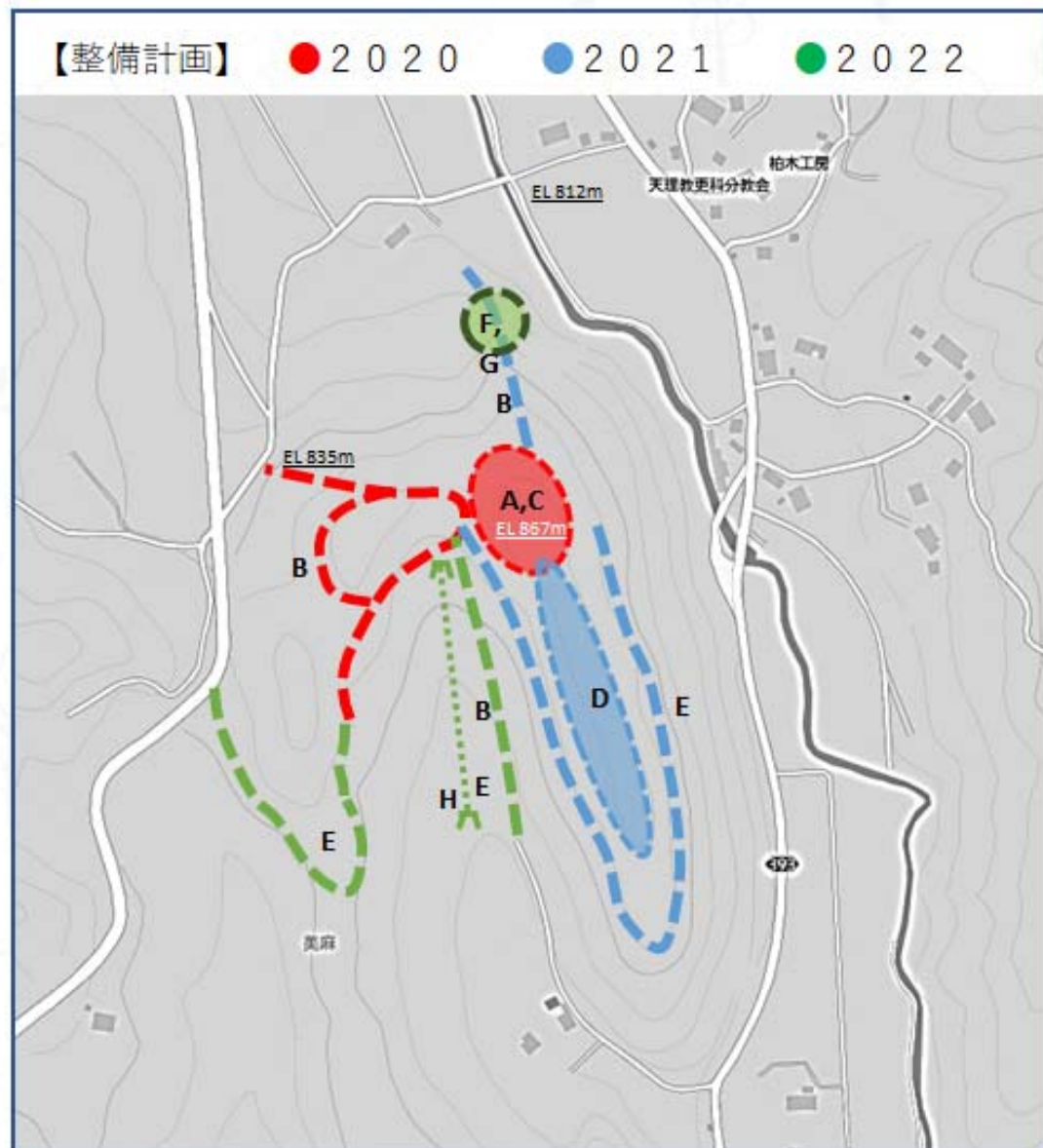
宮村地域自然公園は、フランスの地方自然公園制度をモデルとして、地域を自然条件、景観などを考慮して、「現状を保全する地域」、「管理する地域」、そして「積極的に価値付け（活用）する地域」に区分して里山整備を推進します。



ふたえ里山整備協議会事業実施見取図

Miyamura Natural Regional Parks Maintenance plan

《宮村地域自然公園整備概要》



【A】
Observation park (展望公園)



【B】
Footpath (フットパス)



【C】
Wooden play equipment (木製遊具)



【D】
Dog run (ドッグラン)



【E】
MTB course (マウンテンバイク・コース)



【F】
Siesta forest (昼寝の森)



【G】
DIY Tree house (ツリーハウス作り体験)



【H】
Tarzan rope (ターザン・ロープ)

1年目の活動



刈払い作業



現地踏査



伐採、不陸整正

2年目の活動

トレッキング コースの整備

- コース延長
= 500m
高低差
11.3m



3年目の活動

②里山整備活動

公園整備を通じた里山整備活動を実施した。

■伐採した木使った
ドームテント製作
ワークショップを実施

公園の拠点施設となるよう木製ドームテントを製作。
ワークショップを通じて地域材の活用について考える機会とした。



作業で排出された木を製材



パネルを設置して
越冬、耐雪試験も実施



パーツの作成



天幕づくりの採寸



現地組み立て（女性子どもでも簡単にでき、約30分で完成）

3年目の活動

⑧地域材利活用

公園整備に伴う排出材の活用

■地域材を活用した ゴミステーションの建設



作業で排出された木を製材



地区内に大町市の定住促進住宅が建設され、3世帯が協議会に参加。要望のあったゴミステーションの新設について、親睦を兼ねて、昨年までに整備に伴い伐採した木や地域の古材を等活用して手作りした。



3年目の活動

⑧地域材利活用

地域材の利活用を考えるワークショップを開催した。



作業で出た端材は、薪として活用した。



10月 削り馬を使ったワークショップをイベントに合わせて開催。子供たちは自然の中で、自由な発想で創作活動に動んでいた。



8月 道の駅のイベントに地域材利用商品（試作）を出展し、活用についてPRを実施した。



2月 エコツアーリズムの勉強に来た東海大学の学生に地域材の活用について説明し体験いただいた。

3年目の活動

⑩ 観光利用

整備した公園施設の観光資源としての活用を目指してイベントを実施した。
遊具については、使用後撤去可能なものを選定し設置した。

令和4年度県民協働による里山の整備・利用事業

2022 木々アソビパーク

10/30 (日) AM10:00 カラ

参加無料

私たちの公園は、ただの山。だから、あなたのアイデアで、作って、遊んで、片付けて、秋の一日を、楽しもう！

ハンモックで休憩
トランポリン体験
ZIPライン体験
スラックライン体験
間伐材ドームテントづくり体験
パイオトイレ体験

【お問合せ・お申込み】
ふたえ里山整備協議会
E-mail futaesatoyama@gmail.com

会場：大町市二葉町 36-52495 (〒139-8567)



遊具の設置 (ジップライン)



遊具の設置 (スラックライン)



遊具の設置 (ハンモック)



遊具の設置 (トランポリン)

3年目の活動

⑩観光利用

整備した公園施設の観光資源としてのプログラム構築を目指してイベントを実施した。

令和4年度県民協働による里山の整備・利用事業

申込はコチラから

2023

雪山でアソボー



<https://onl.sc/z5REu3N>

参加
無料

■雪山テント体験
雪の上でテントをはってみよう。



1/28 (土)

AM10:00
から

冬の公園は、一面の雪景色。でも、雪が降って初めて見える景色もあるのです。
何があるのか、登って、下って、見に行こう！

■スノー・トレッキング体験

お子さんは保護者と参加ください。
【持ち物】 防寒具、カンジキ、水筒、その他必要な物は各自お持ちください。
※カンジキのない方には貸し出します。
(大人用のみ、数に限りがあります。)



■サバイバル水づくり体験

雪から水を作って飲んでみよう。災害発生時にも役に立ちます。



【お問合せ・お申込み】
ふたえ里山整備協議会

E-mail futaesatoyama@gmail.com



地区内在住のマクドナルドさん（冒険家）を講師に迎え冬山の楽しみ方を学んだ。



冬山でトイレやテントの設営の基礎を学んだ。



冬山でレクリエーションで課題となる飲料水の確保について、防災用品の活用を応用して学んだ。



2月 1月の研修内容を活かして、エコツーリズムの勉強に未だ東海大学観光学部の学生のゼミに協力し、スノートレッキングを体験していただいた。

【開かれた里山づくりに向けて】

私達の地域にとって 「里山」は、 誰に向けて開かれた山 としたらよいのか？

「里山」とは、集落や人里に隣接した結果、人間の影響を受けた生態系が存在する山を指します¹。里山は、水質浄化や土砂災害の防止、大気浄化などの環境質を保全する機能を持ちます。地域住民が自分たちで里山を整備し、利用することで、多くの人々が身近に親しめる里山づくりに取り組むことを指す「開かれた里山」という表現もあります²。このような里山整備利用地域では、地域の特徴を活かした自立的な活動を行い、その里山の魅力を広く発信する活動を行っています¹。

地域との連携



地区PTA との連携

集落周辺の環境整備で刈ったヨシを活用して正月のどんど焼きを実施。



美麻小中学校との連携

里山整備や地域材の活用についての授業を9回実施（8～2月）



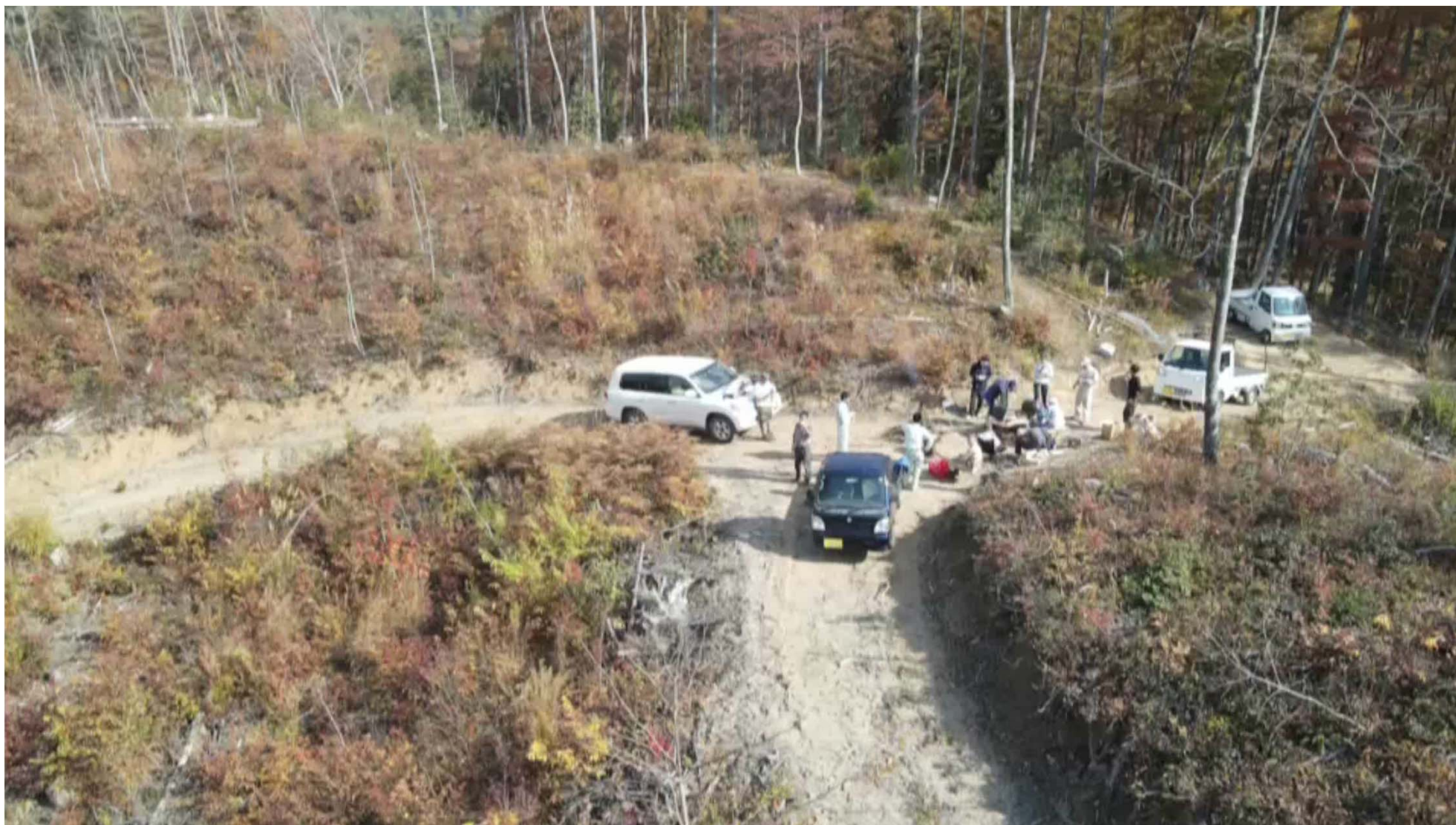
ボランティアとの連携

ワークキャンプのプログラムとして、全国からボランティアを募集



ボランティアとの連携

ワークキャンプのプログラムとして、全国からボランティアを募集



里山の整備は時代ごとに、その必要性や
担い手が変化してきた。
地域の人口減少
が進む中、
生活環境を守るため、
住民以外の多くの人が
主体的関わられる**新しい**
扉を開くことが必要。!



昭和10年(1935年)頃、出征する人を地域の
人達が総出で見送る様子。
当時は、山林ではなく蕎麦畑が広がっていた。

The background features a repeating pattern of a forest scene. It includes various types of trees (deciduous and coniferous), mountains, houses, and animals like deer and a rabbit. The colors are muted greens, browns, and greys. In the center, the text "ご清聴ありがとうございました。" is written in a bold, black, sans-serif font.

ご清聴ありがとうございました。